

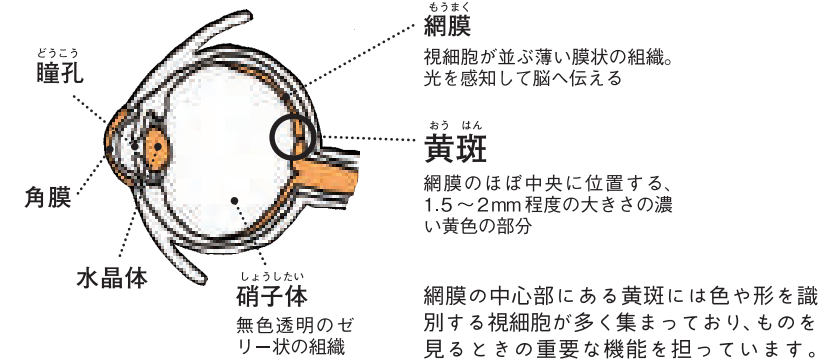
病知から

黄斑疾患

ものを「見る」ときにもっとも大事な機能を担っているのが、目の黄斑と呼ばれる部分。この部分に何らかの原因で異常が起こるのが黄斑疾患です。

「黄斑疾患」って、どんな病気？

黄斑は「見る」機能の要となる部分

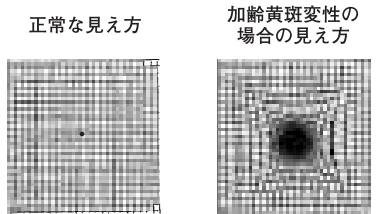


黄斑部の病気の総称

- <主な黄斑疾患>
- 加齢黄斑変性
 - 黄斑浮腫
 - 黄斑上膜
 - 黄斑円孔
- など

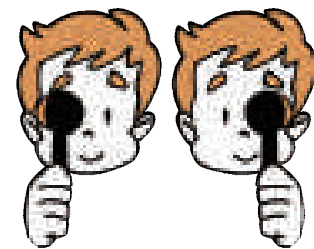
黄斑疾患とは、黄斑に異常が現れるいくつかの病気の総称です。

視野の真ん中が見えにくくなる



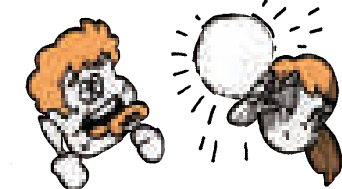
視力低下のほか、視野の中心付近が歪んだり、暗く見えたり、黄色く見えたりするなどの症状が現れます。

片目ずつチェック



片方の目に症状が現れても、もう片方の目がサポートしているため気づきにくいことも。片目ずつチェックしましょう。

全身疾患や生活習慣にも注意



高血圧や糖尿病などの疾患のほか、加齢、喫煙、ストレス、紫外線、肉の多い食事などがリスク要因であるといわれています。

特色あるアイセンターで安心「黄斑疾患」の治療

「見る」機能が低下し、日常生活にも影響をおよぼす黄斑疾患。その治療について、眼科の先生に話を聞きました。



モットーは「目を診て人を診る」。患者さんの背景を知ったうえで、より適切と思われ治療を提案しています。

患者さんの不安を少しでも取り除くため、病状についていけないに説明することも意識しています。

眼科 五味文 主任教授

— 高齢化や診断技術の向上などにより、近年、黄斑疾患の患者さんの数が増えています。加齢黄斑変性は70歳代に多く見られますが、若い方では40歳代で異常が見つかることもあります。黄斑浮腫は、糖尿病や動脈硬化などと関連して生じることが多く、黄斑上膜、黄斑円孔は50歳代から増えてきます。

治療はそれぞれの病気で異なります。加齢黄斑変性や黄斑浮腫の場合、目の中に薬剤を注射します。急いで治療を行う方がよいと判断されれば、初診当日にも注射を行います。年間約2000件の注射を行っています。黄斑疾患によってはレーザー治療を行うこともあります。

黄斑上膜や黄斑円孔の場合は、眼球の中にある硝子体というゼリー状の組織が病気の原因となるため、手術により取り除きます。手術では、白目の部分に小さな穴を3か所開け、そこから細いピンセットや照明などの器具を挿入します。局所麻酔で、ほとんど痛みはありません。白内障の手術と同時にすることも多いですが、手術時間は両方合わせても1時間くらい。入院期間は3～7日程度です。

兵庫医科大学病院のアイセンターには眼科専用の手術室が3つあり、年間の網膜硝子体手術実施数は670件にもおよびます。眼科の病棟と同じ階にあるため、患者さんも看護師もスムーズに行き来でき、患者さんの状況を把握している看護師が手術にも付き添えます。このように病棟と一体で運営しているアイセンターは珍しく、全国から見学に來られます。加えて、兵庫医科大学病院の眼科には、あらゆる目の病気を専門にしている医師がそろっています。眼科外来には最先端の機器も導入されているので、安心して受診していただければと思います。

黄斑疾患は放っておくと、進行して日常生活に影響が出ることも。治療が遅れて網膜の神経が傷んでしまうと元のように戻らない場合もあります。見え方の「質」は生活の質の向上にもつながるはず。「見えているから」「片方だから大丈夫」などと思わず、気になることがあれば早めに受診しましょう。